



「自分事」について考える

「自分事」…様々なところでよく聞くワードです

「自分事」とはどういうことで何が良いのか…

今回は「自分事」を深掘ってみたいと思います

「自分事」とは？

「自分事」という言葉、実は正しい日本語ではなく、正確には「自分の事」と表すのが正しいそうです。そんなうんちくは置いておいて…「自分事」というワードを聞いて思い浮かぶのが、コンプライアンス。不祥事を誰にでも起こりうること「自分事」として捉える当事者意識をもつことが大切ですが、「仕事」においても「自分事」はとても重要な姿勢と言えます。

「仕事」における自分事

みなさんは、今の「仕事」を「自分事化」していますか？

「仕事」を義務的なルーティン作業として捉えるのではなく、自分の大切な人生の一部として取り組むこと、「自分事化」して仕事に取り組むことは職業人として持つべきスタンスとも言えます。

「自分事化」することで、与えられた仕事に対して主体性をもって取り組むことができ、仕事に対して目的意識をもつことができるなど、様々なメリットがあります。

では、「自分事化」できないとどんなことが起こるのでしょうか？

「自分事化」できないリスク

仕事を「自分事化」できないと、受け身や指示待ちになります。つまり、主体的な行動がとれず「言われたことをやればいい」という姿勢になります。また、責任感が欠如して、責任逃れをするようにもなります。そして、受け身のまま仕事をしているので、大きな変化を受け入れられず仕事の全体像がつかめなくなり、仕事の目的や意味を理解できなくなります。

仕事を「自分事化」するために

仕事を「自分事化」するために、手始めにイメージすることから始めてみましょう。例えば、学校のグランドデザインを見て、「この項目で自分はこんなことができるかな…」とか、他の人が担当する行事や授業を見て、「自分ならこうするな…」など、様々な場面において「自分なら」をイメージして、仕事の「自分事化」を図る方法です。また、自分の仕事を当初の目的と照らし合わせて振り返ることも「自分事」近づく一歩になると思います。

まとめ

仕事は、「できる」「できない」、「わかる」「わからない」ではなく、相応の対価をいただいている以上、やり遂げなければなりません。仕事の花を咲かせる場所を選ぶのではなく、与えられた仕事を「自分事化」して、いかに与えられた場所で咲くことができるかを意識していくことが大切なのではないでしょうか？

古い言葉になりますが、「暗いと不平を言うよりも、進んで灯りをつけましょう」という姿勢が大事なのかもしれませんね。